今年は犬年 猫派? 犬派

# 九条はらまち

福島県「はらまち九条の会」会報 **No.310**
2018（平成30）年 1月25日（木）発行

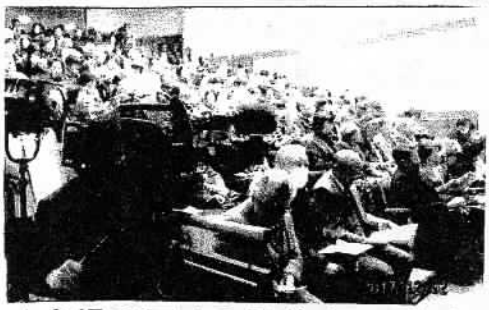
**明治150年何がめでたい** ■私たち東北地方やその住民（蝦夷・エミシ）にしてみれば、ヤマトタケルの時代から、特に明治150年は差別や迫害、搾取され続けた歴史です。現在も「植民地」と呼ばれ、核災（原発事故）で苦難を強いられています。■お人好しの福島県民と嘲笑され、素直に明治150年を祝うことなどできません。明治への復古や国粋主義、郷愁や歴史の美化でなく、その光と陰などの検証が必要です。

**今年は** ・西暦2018年・平成30年・戊戌（つちのえいぬ・ぼじゅつ）
・明治では151年（満で150年）
・大正は107年（満で106年）
・昭和は93年（満で92年）
**○原爆投下や終戦から73年**
**○日本国憲法施行から71周年**

## 今年も「憲法」遵守をアピール

### 1月7日（日）南相馬市成人式：会場ゆめはっと

■**「はらまち九条の会」**が新成人に『憲法』冊子（1971年旧原町市発行の復刻版）の手渡しする活動は、2008年から2016年まで9年間続けました。■昨年からは、南相馬市が市発行の『憲法』冊子を新成人に配布しているので、本会では**「憲法チラシ」**（会報№309）と**「ピース9ナインコーヒー」＜写真＞**を手渡し、今年は事務局員など14名で約460名の新成人に「おめでとう」と声をかけながら手渡しました。■政治に無関心でなく、「日本国憲法」を遵守し人権保障や平和維持に努め、無責任な政治家にはだまされないように、ともに学んで行きましょう。



▲会場の原ノ町駅前市マルチメディアホールでは、NHK福島支局が取材。12月8日テレビニュースで報道されました。

## 中村敦夫・朗読劇 会場は満席 一体に

◇原発への理不尽さや怒りを、元原発技師に扮して福島弁で語る中村さんの朗読劇「線量計が鳴る」は、12月2日に開催され、会場は立見が出るほどの満席で、演者と一体になった充実の2時間でした。

熱演の中村敦夫さん▲

## 「甲状腺がん子ども基金」へ寄付

○右の**＜会計報告＞**の残高全額を、中村敦夫さんのご意向に添い「NPO法人3.11甲状腺がん子ども基金」（代表崎山比早子）に、12月10日に寄付しました。福島県内の「小児甲状腺がん・疑い」は194人（昨年10月）に増加していて不安です。○報告と感謝を申し上げます。

**＜上演会計報告＞**

| | |
|---|---|
| ◇収入・入場券（@1500円×157枚） | 235,500円 |
| ◇支出・ポスター・チラシ印刷 | 27,426円 |
| ・演者謝礼・交通宿泊費など | 124,000円 |
| ・スポットライト借用経費 | 12,220円 |
| ・事務局準備経費・雑費 | 14,056円 |
| ◇残高（収益） 57,798円 | |

## 改憲は絶対ダメ 安倍9条改憲NO！ 3千万人署名

**○もう署名は提出されましたか。全国で3千万人、南相馬市で1万6千人が目標です。**
**○何名分でも署名が集まりましたら、お手数ですが事務局員にお届けください。**

# アメリカが"核なき世界"を放棄

## 日本政府は米国に追随し「高く評価する」

2017年・各国の核弾頭保有数

| | | | |
|---|---|---|---|
| ロシア | 7000 | パキスタン | 140 |
| 米国 | 6800 | インド | 130 |
| フランス | 300 | イスラエル | 80 |
| 中国 | 270 | 北朝鮮 | 20 |
| 英国 | 215 | | |

●2月2日、トランプ米政権は、非核攻撃への報復にも核を使い、さらに使いやすい小型核兵器の開発も明示した。●これは、オバマ前政権の「核なき世界」を放棄し、世界の「核兵器廃絶」の歴史に逆行する狂気の政策です。●ところが、さらに失望したのが、3日河野太郎外相談話で「日本政府は高く評価する」と発表したこと。「唯一の被爆国」という日本の立ち位置も全く念頭になく、すべて米国に隷属し言いなりで情けない。

○2016年4月から日本被団協が主導する、**すべての国に核兵器禁止条約の締結を求める「ヒバクシャ国際署名」**に、1月8日現在、日本国内の自治体首長（1788）の過半数（1015）が賛同しています。ICANがノーベル平和賞を受賞。核兵器の抑止力などもう無意味な考えです。

○今年こそ日本は、アメリカへの忖度をもう止めて**「核兵器禁止条約」**を批准すべきです。**子どもや孫たちのためにも**、「戦争しない国・日本」を堅持し「核兵器のない世界」が大人の務めです。

# 子どもたちに再び こんな悲しい思いをさせてはいけない

## ローマ法王が「これが戦争の結果」と、"焼き場に立つ少年"の写真を配布

**1945年9月原爆投下直後の長崎「死んだ弟を背負い、焼き場で順番を待つ少年」**

▶アメリカ従軍カメラマンのジョー・オダネルが被爆地の長崎で撮影。死んでしまった幼い弟を背負い、川岸に設けられた死体焼き場にやってきて、直立不動の姿勢で順番を待つ十歳ほどの少年でした。（小学館発行の写真集『トランクの中の日本』九七ページに所収）

■昨年の末、バチカンのローマ法王・フランシスコは教会関係者に、1945年原爆投下直後の長崎で、アメリカ従軍カメラマンが撮影した写真「焼き場に立つ少年」をカードとして配布しました。■法王はこの写真に「戦争の結果」とメッセージし、カードの説明には「亡くなった弟を背負い、火葬の順番を待つ少年。少年の悲しみは、かみしめられて血のにじんだ唇に表れている」と書き加えられている。■ローマ法王は「核なき世界」を訴え続け、昨年11月に核軍縮をテーマにしたシンポジウムの参加者に「核兵器は人類の平和と共存しない」と述べ、核廃絶を求めるメッセージを全世界に投げかけています。

**ジョー・オダネル氏▲**
○1922年5月米国生まれ。○2007年8月9日、長崎原爆投下の日86歳で死去。

**▲妻の坂井貴美子さん**○会津若松市の出身。○日米各地で「原爆写真展」を開催。

◇**この少年と同年齢の 若松丈太郎さんは、詩『死んでしまったおれに』を創作。**『若松丈太郎詩選集一三〇篇』コールサック社に収録されています。

◇また、**吉岡栄二郎著『「焼き場に立つ少年は」何処へ』長崎新聞社・2013年に出版。**少年は誰か、調査しますが不明のままでした。

◇さらに、16歳の時長崎で被爆した**深堀好敏（ふかほりよしとし・88歳）さん**は、「爆心地周辺での撮影ではないが、戦争の惨禍を示すものだ」